

平成 30 年度 第 1 回 佐渡市総合教育会議 議事録		
開催日	平成 30 年 10 月 3 日(水)	会場
開会時刻	午後 3 時 30 分	畑野行政サービスセンター 3 階 大会議室
閉会時刻	午後 4 時 55 分	
出席者		
市長 三浦 基裕	教育委員会 教育長	渡邊 尚人
	教育委員会 教育長職務代理者	佐藤 辰夫
	教育委員会 委員	仲川 正道
	教育委員会 委員	中村 友子
	教育委員会 委員	信田 恵子
説明のため出席した職員		
総務部総務課	学校教育課	
課長 中川 宏	課長 山田 裕之	
課長補佐 左京 理恵子	管理主事 濱田 晴明	
企画財政部企画課	指導主事 後藤 修治	
課長 岩崎 洋昭	課長補佐 伊藤 賢治	
	総務係長 飯田 誠	
	社会教育課	
	課長 渡辺 竜五	
傍聴人数	3 人	

会議に付議した議題
<p>教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議・調整</p> <p>(1) ICT 環境の整備計画について</p> <p>(2) 佐渡市小中学校のエアコン整備計画について</p> <p>(3) 博物館、資料館等の今後の整備計画について</p> <p>(4) 佐渡ジオパークの現状について</p> <p>(5) 部活動のあり方(教職員の働き方改革)について</p> <p>(6) 佐渡市小中学校の不登校の現状について</p> <p>(7) 佐渡市小中学校の学力向上(アンケート調査)について 学力の向上に関する施策について</p>

<p>・ 山田学校教育課長</p>	<p>◎本総合教育会議は、午後 3 時 30 分から開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定刻になりましたので、会議を開催させていただきます。 ・ 本日は、ご多用の中、平成 30 年度第 1 回佐渡市総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。 ・ 総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第 1 条の 4 に定められています。その条文には、地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び次に掲げる事項についての協議並びにこれらに関する次項各号に掲げる構成員の事務の調整を行うため、総合教育会議を設けるものとするあり、1、教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策、2、児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置と定められています。 ・ 本日の議題は、第 1 号の諸条件の整備、地域の実情に応じた教育、学術及び文化、振興を図るための重点施策に該当する内容となります。 ・ 議題は、(1) から (7) までありますが、終了時刻を午後 5 時とさせていただきますので、できるところまで進め、時間が来ましたら、そこで終了ということをお願いします。事務局としましては、できれば (4) までには終わらせたいと考えています。 ・ なお、本会議は公開で行っておりますので、よろしくお願いします。 ・ 議事の進行につきましては、佐渡市総合教育会議運営要綱第 3 条第 2 項の規定により、三浦市長をお願いいたします。
<p>・ 三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、議題に入らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。 ・ まずは、1 番と 2 番。1 番、ICT 環境整備についてと 2 番の佐渡市小中学校エアコン整備計画について、2 つ続けてまず事務局の方から説明をいただいた後、意見交換に入りたいと思いますので、よろしくお願いします。
<p>・ 山田学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ では、私の方から (1)、(2) の説明をさせていただきます。 ・ まず、議題 (1)、ICT 環境の整備です。この後、配付しました資料を使って説明していきますが、今回資料が多いため、それぞれ右上に資料番号がわかるように四角囲みで資料 1、資料 2 というふうに番号がつけてあります。資料番号を示しながら説明させていただきます。 ・ では、まず個別の説明を行う前に A 3 判の横判、資料 1 ですが、これをご覧ください。これにつきましては、今年度 8 月に市長ヒアリングを行った平成 31 年度当初予算の重点及び施策的事業の抜粋です。今回の議題を (1) から (4) までに関する内容について抜粋してあります。この後、この資料 1 をベースにして、それ以降の資料も使いながら説明をします。 ・ では、(1)、ICT 環境の整備計画から説明します。これにつきましては、あわせて資料 2 をご覧ください。このようなカラー刷りのもので両面

印刷になっております。今後ICTの整備を進めていく中で、佐渡市教育委員会としての推進計画、整備計画が必要であるとの判断で、このたび作成した計画が資料2です。表面が学校教育の情報化推進計画、裏面が学校のICT整備計画となっています。今回は、特に裏面の整備計画を中心に説明いたしますので、裏面の方をご覧ください。

- 年度ごとの整備計画を矢印で示しました。タイトルのすぐ下にある西暦の脇に括弧書きで平成元号をつけておきました。来年度以降は平成でなくなるとは思いますが、対比しやすいと思ひまして、参考までにつけたものです。
- これから説明する内容につきましては、あくまでこちらの方でお願いしたい目標であるということをお断りしておきます。
- 整備したい機器やソフトを左端に示してあります。一番上にある電子黒板、2番目の書画カメラ、実物投影機、3番目のデジタル教科書の3点セットをまずは3年間で全小中学校に整備したいと考えています。
- 吹き出しに整備する学校数を示してありますが、これは今年度からの累積数を示したものです。今年度2018年度は、小学校1校、中学校1校に整備しましたので、2019年度は小学校11校、中学校6校に整備することで、合計が小学校12校、中学校合計が7校となるというふうに読んでください。そうすると、2020年度には残りの小学校10校と中学校6校に整備し、小中35校全てに3点セットの整備がまずは終了するというふうな計画で考えております。
- 資料1に戻ります。ということで、この表の一番上にあるIT整備事業の左端にある事業費をご覧ください。平成30年度は、小学校1校、中学校1校に配備でしたが、来年度平成31年度は小学校11校、中学校6校分ということで金額が多くなっています。機器の値段は、今年度の製品で今年度の単価で概算したのですが、今後計画を具体的に進めていく中で、割安の新製品が販売されたり、整備数を調整したりする必要が当然出てくるものと思っておりますので、現段階では目安の金額と捉えてください。
- 再び資料2の裏面に戻ります。ご覧ください。タブレットの整備につきましては、その後2020年度から2022年度までの3年間で全学校に1学級分を配備する予定にしています。タブレットをより有効に活用するためには、普通教室に無線LANを整備する必要がありますので、それも併せて進めていきたいと考えています。したがって、資料1の2段目のIT整備計画事業については、来年度予算には計上してございません。ゼロ円ということになって表示されています。
- 資料2の一番下になります。パソコン室のパソコンを年次計画に基づき、順次入れ替えを行っていきますが、今後はデスクトップ型ではなく、ノート型、さらにもし可能であればタブレットタイプに切りかえていきたいというふうに考えています。
- 資料3をご覧ください。これは、今年度モデル校として先行導入した内

海府中学校区、金井小学校区の説明会に使用した資料から抜粋したものです。参考までに授業による活用法をまとめました。今年度から3年間で整備するものが1から3になります。その後2020年度から整備しようと考えているものが4になります。5、6については、今のところ計画はありませんが、将来的には整備していきたいものとして上げさせていただいております。

- ・ 以上で議題1の説明は終わります。
- ・ 続きまして、議題2、佐渡市小中学校のエアコン整備について説明をさせていただきます。
- ・ では、これにつきましては、まず資料4をご覧ください。ランチルームのエアコン整備事業についての資料です。何度も申し訳ありません。また、資料1の方に戻ります。資料1では、重点と考える事業の3段目に記載してあるものです。ランチルームのエアコン整備は、毎年数校ずつ計画的に進めてきました。そして、ここに記載してある3校に整備すると、佐渡市の小中学校でランチルームがある学校には全て設置されることとなります。以前からの計画でもありますので、これについては来年度予算で実施したいと考えています。
- ・ なお、ここに書かれている数字は、全て業務用エアコン、パッケージエアコンを整備することを前提とした金額となっております。
- ・ 次に、資料5をご覧ください。こちらは、小中学校の全ての普通教室にエアコンを設置した場合の事業費の概算です。こちらも全て業務用のパッケージエアコンでの設置を想定した場合の数値となっております。
- ・ また、資料1に戻ります。資料1、資料の表の一番下、特殊要因で増減する事業にも普通教室エアコン設置工事として記載してあります。資料1にある金額と資料5の金額が違うことにお気づきと思いますけれども、資料1を作成する段階ではいわゆるキュービクル、校舎外に設置してある高圧受電設備の整備費を見込まない金額として算定したため、金額が少なく表示されています。
- ・ 資料5については、議会にも資料提出された新市建設計画に伴う平成31から35年度の建設事業基本案の最後のページに掲載したナンバー107、108の小中空調整備事業に載せるために、再度概算し直した数値です。こちらにはキュービクルの整備費も含まれているため、高めに表示されています。
- ・ 次に、資料6をご覧ください。これは、佐渡市の小中学校の普通教室に整備するエアコン整備費の全額の概算について比較したものです。業務用のパッケージエアコンと家庭用のルームエアコン及びリースの場合の比較です。昨年度までに新潟県に確認した段階では、家庭用ルームエアコンは補助対象にならないとの回答であったため、国庫補助費はルームエアコンのところについてはゼロ円と記載していますが、初期整備費だけを比較すると、半分以下の経費でルームエアコンの方は整備できるということがおわかりになると思います。

	<ul style="list-style-type: none"> • 下の考察欄に、リースの場合も含め、それぞれの長所、短所が掲載されていますので、一つ一つ読み上げませんが、参考にさせていただきたいと思います。 • 今後臨時国会が開催され、学校へのエアコン整備に関しても何らかの補正が措置されると聞いております。また、昨日の内閣改造に伴う首相記者会見の冒頭でも、小中学校へのエアコン設置について対応する旨の発言が首相からあったというふうにも聞いております。現在新潟県に対しても、県による補助制度も何とかあわせて措置してもらえるよう要望しています。 • いずれにしても、学校教育課としましては、小中学校の普通教室へのエアコン整備を喫緊の課題として取り組まなければならないと思っています。今後国や県の補助制度がどのように措置されていくかを注視するとともに、他市町村の動向も情報収集しながら、また家庭用ルームエアコンの設置も可能性の一つと想定し、整備計画の準備を進めていきたいと考えています。 • 私からの説明は以上です。
<ul style="list-style-type: none"> • 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> • それでは、意見交換入る前に、1番、2番の今の資料説明の中で質問がまずありましたら、よろしくお願ひします。資料でわからないところありますか、大丈夫でしょうか。よろしいですか。
<ul style="list-style-type: none"> • 委員全員 • 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> • 質疑なし。 • それでは、意見交換に入らせていただきます。これは、1番と2番、それぞれでやりたいと思いますので、よろしくお願ひします。まず、1番目の議題のICT環境整備についてご意見等がございましたらよろしくお願ひいたします。
<ul style="list-style-type: none"> • 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> • 今日の議題に上がっておりますICTについては、前々からいろいろ話題には上っていたんですけども、予算措置がほとんどなされていなかった。今回この総合教育会議が非常にいい機会ですので、意見を申し上げたいと思います。 • 資料1の中に交付税措置ありという項目が上から2つ書いてあります。また、私の手元にある文科省の資料では、平成26年から29年の4カ年かけて、教育のIT化に向けた環境整備4カ年計画がのっています。この中にも、交付税措置があるから、ぜひ計画的に進めてほしいということが書かれてあります。つまり過去4カ年にわたって、佐渡市にこれを整備するだけの交付税が下りてきているということになります。それが今に至って使われていない。交付税そのものを執行するのは市長の権限だろうと思いますので、このことに法的な縛りはないと思いますけれども、やるべきことがなされていないというのは大変大きな問題だと考えます。 • もう一つ資料があるんですが、都道府県別IT環境の整備状況については、例えば普通教室の無線LAN整備率、平成29年3月1日現在では、47全都道府県中の1位が静岡県で63.1%であります。新潟県を見ますと、新

新潟県は44位、10.7%です。佐渡市ゼロ%。明らかに遅れている。

- それから、もう一点、電子黒板については平成29年3月1日現在の普通教室の電子黒板整備率であります。1位が佐賀県、128.5%、100%を超えています。新潟県はそれでも頑張っているようで19位、24.3%であります。佐渡市はゼロ%ということになります。数値的にも明らか。時代がICT教育を要請していると私は考えておるんですが、この状態を来年度の予算でも続けてはならない。しっかりと予算確保しながら整備を進めてもらいたい。明らかなICT教育の教育格差、教育インフラの格差が起こっている。

- 若い人の中で、特に子育て世代につき合いがある人が多いんですけども、子育て世代の中で特に教育に関心のある親御さん方は、こういうふうに佐渡市が教育にしっかりと予算をつけて整備をしなければ大変残念なことになる、つまり、島から出ていきたいというような気持ちを私に伝える人があります。教育環境整備に使うべき交付税を、今回の総合教育会議を契機に、しかるべき年次計画を立てて活用し、ICTの充実に努めてもらいたい。よろしくお願いします。

- 三浦市長
- 佐藤委員

- 関連で何かございますか。

- 今、仲川委員が話されたことと若干かぶりがあるかもしれませんが。ICT環境の整備計画はぜひとも進めていただきたい。いま一度ICT教育のメリットというものをもう一度、一般的に捉えられているものを振り返れば、わかりやすい授業、映像、音響、それから学習の効率化、五感に訴えるということによって楽しく学べると意欲にもつながる。そして、デジタル機器に慣れる、これは大きな要素であろうと思います。IT企業、ICT時代云々というのは毎日報道の中で繰り返されております。つまり次世代に活躍する子どもたちに人材育成をするという点で非常に大きなメリットがある。ここはしっかりと捉えておかなきゃいけないだろうと思います。

- 一方、デメリットも当然、光と影ですから、あるわけではありますが、当然機械ですので、不具合が生じます。導入されればされるほどそういった不具合が生ずるのも機械の世界です。このことへの配慮というのもしっかりとしておくことが私は大切かなと思います。

- そしてまた、マスコミにも挙げられている健康面への影響、これはテレビ視聴も全く同じであります。テレビ視聴時間のことは余り言われませんが、これも大きな要因の一つです。

- そして、何よりもICT教育のデメリットになっているものは地域格差だということになります。各自治体における地方交付税による予算配分による導入の格差が非常に大きい。露骨に出ているという表記があります。教育現場というのは、一般的に予算の面から、時代の要請、流れの面から若干遅れぎみになる、これはこれまでの時代ずっと振り返ってもうなずけるところがあります。

- 近年の佐渡市においては、地方交付税による学校図書の実、コンピュ

<p>・三浦市長</p>	<p>ーターの導入等、児童生徒の学びへの環境整備に対して積極的とは言えないというのが、学校現場にいる者にとっての実感であり、また声がいっぱい聞かれました。また、聞かれています。リーダーが、トップが変わると組織が変わる。ぜひ市長さんにはこれまでの遅れを挽回すべく、今ほど説明のありました3か年計画、そしてそれ以後の取組計画に対して積極的な予算措置を期待しておりますが、もし可能でありましたら、ICT教育への市長さんのお考えをお聞かせいただければと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かに設置率を含めて完全に乗り遅れているのは間違いない事実でございます。本当にそこでいうと来年度からやっと本格的に予算をつけようという考え方になった。これは、遅過ぎると言われてもしようがない部分がある。そこはおわびするしかございません。いずれにしても教育委員会サイドとも内部でも協議させていただきまして、来年からは3年計画とか、しっかり計画年次を決めて、最低限の普及、導入にもっていきたいという部分がございますので、ここは本来なら今年の予算からもう少し頑張らなければいけなかったとこだと思いますが、そこについては、今年はいわゆるモデル校形式で終わった分は今後取り返したいというふうに思っております。 ・ その意味でも、各学校側の協力もなければいけないんですが、ICTをしっかりと整備していくために、それこそ教育委員会の中においてしっかり何から優先的に取り組むべきものとかというプライオリティーを、例えばこれから3年なり5年なりしっかりプライオリティーをつけて、その順番を崩さない形で、まずこれが最優先でやることなんだというようなところをしっかりと順序づけた上で、予算等の折衝をこちらもやらせていただければ非常にこちら配分がしやすくなると思います。その辺のところまた教育委員会の中でもいろいろ意見も踏まえて、まずはこのICTは最優先課題の一つだと思っておりますが、それ以外にもいろいろ不登校の問題とか、学力の問題等々も言われている中で、ここをしっかりとやるのが学力アップにもつながったりもするわけでございます。ある意味では不登校防止の部分の要素ももっているものでございますので、その辺のところを優先度を上げてやらせていただきながら頑張りたいと思いますので、他の予算のプライオリティーについてもメリハリつけた意見でお願いしたいと思っております。
<p>・信田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私はただ今、市長さんからぜひ進めていきたいというようなお話を聞いて、本当に心強いし、ぜひお願いしたいところですが、まだ保護者の皆さん、それから一般市民の皆さんもそんなにすぐ導入していいのか、いろいろな弊害が出ているのではないかというようなことも、それから以前請願書というような形でも出ていることが事実です。それに際しては、やはり先に進めているから、いいんだよということではなく、今実際にモデル校なり、それから順次進めていく段階で保護者の皆さんも含めて、私たちも1回そういうような授業も経験してみたい、見てみたいというものもありま

<p>・三浦市長</p> <p>・山田学校教育課長</p> <p>・三浦市長</p>	<p>す。そういういろいろな機会を使って一般市民の方にも理解、そして保護者の方に理解、それからまずは何といても子どもたちが一番興味をもって、なおかつ取り組んでわかる、先生も教材を準備するに当たり、今までは一から手作業でやっていたことが、デジタル化されたことである程度またできているものを使いながらも、先生方が時間を有効に活用できるという意味で、私は進めてほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なかなか市で導入するからといって、すぐもろ手を挙げて賛成という方はまだまだ意識も低いと思います。やっぱり機会を重ね、大いに触れ、いいところをどんどん皆さんに知らしめていただきたいと思います。それから、いわゆる段階的にここまで来ているよ、だけど、今佐渡市ではどのくらい問題が、どういうことが現場で上がってきているのかというの、検証を進めながら進めていっていただきたいと思います。 ・ 3年というのは短いようで、全佐渡市の小学校、中学校にいき渡るには、本当に格差だなと。先に導入されたところはいいでしょうけれども、やっぱり最後まで残ってしまったところはそれだけの環境、教育の格差を生じているのではないかな、それが不満に感ずるところもあるんじゃないかなというような思いがいたします。その辺のところをよろしくお願いします。 ・ おっしゃるとおりで、やっぱりこういうデジタル化、ICT化するとすぐブルーライトの問題だとか、電磁波の影響という話になる方もいらっしやるんですけど、それであれば、じゃあ子どもに携帯持たせていることも、ある意味同じ影響があるとかという部分の認識はどうしても持ち切れていないようなところをわかりやすく根気よく説明しなきゃいけないんでしょうけれども、もう一つ、保護者の皆さんに、今後来年度以降校数が増えていく中で、実際にどれだけ子どもさんと同じ環境のものを触って体験してもらうかという作業が一番大事なのかなとも思うんですけど、その辺の方法論みたいなのは何か考えていますか。 ・ とにかく学校で授業とか、教育活動で使っている姿を見ていただくというのがまずは第一だと思っていますので、導入した学校から積極的に参観日とは限らず、いろいろな機会に見せていくということがまず一歩だと思っています。実際今月モデル校で導入しました金井小学校、研究会を行うんですけど、早速その研究会でも使っているところを示すというふうに話していますので、そういうことをまた上手に宣伝して、いろいろな方に見てもらう。もし希望があれば触ってもらうというようなことも含めた今後周知の仕方、考えていきたいというふうに思っています。 ・ すみません、もう一つ、個人的には、ICT導入というのは、先生方の授業準備の負担軽減に最終的にはつながるものと私は確信しておるんですけど、どうしても今までよりもプラスの時間を、慣れるまでは割く状況も出てくると思うんですね。でも、そこのところを先生方が、これ最終的に自分達の働き方改革にもつながるんだと、本当に確信をもって取り組んでくれると、保護者への連動の仕方も違うのかなとも思うんですけど、どう
--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田学校教育課長 	<p>しても慣れないからという部分があるとも聞いています。その辺の対策はどんな感じですか。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある調査によると、4分の3ぐらい、70%以上の先生方たちはできませんというふうに答えているので、残り25%ぐらいがそういうふうに回答していないという国の調査の結果があるんですが、じゃ、その25%の方全員が苦手だというふうに答えていないと思うんです。得意な方がまずは児童生徒相手にやってみせて、すごくいいんだということをお納得できると、今のところ抵抗感があるという先生方もつられて良さを、自分も真似したいということでどんどんやっていくというふうに考えていますし、そういうことができる時期だというふうに思っています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度内海府小中学校区、それから金井小中学校区地域の方の説明会入らせてもらったんですけども、その中で貴重なご意見たくさんいただいた中に、これはあくまで道具なんだと。どう上手に使うかは人間の、我々の仕事なんだということなので、まず上手に使える方、効率的に使える方のやり方をみんなで現地で学ぶということが、教師の間でも広げていく、苦手意識を払拭していく最大の方法だというふうに私も考えておりますし、必要があればまたそれこそ堪能なメンバーであるとか、うちの指導主事とかも一緒になって関わって、さらによい使い方を見つけていくという研修も、現地研修などを含めてやっていく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我々とするならば、一気に全校にはいかないの、段階的に配置していく中で、そこで、配置はしたけど、うまくこなせているところと、いまいちのところの温度差がどうやって出ないようにするかというのが一番大事かなと思うんですけど、その辺を慎重に、丁寧にとということをやっていたら、実際ICTというのはやってみれば絶対こっちの方がと保護者もなってくれると思うんですけど。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、市長さんの話を聞いて大変うれしかったんですが、ほぼ我々と温度差はないような受け取り方をしています。教員については、概して先生方はまじめです。新しいものが入ってきて、これをこれから使っていくとなれば勉強します。そんなに心配は要らないだろう。それから、文科省ではICT支援員という言葉を使っていますね。必要に応じてICTに堪能な人間を特別に学校職員なり、あるいは何らかの形で訪問配置というのかな、そういうものをしながら指導していけば、そう長く時間はかからないだろうと私は期待しています。それよりも心配なのが、今やらないで置くと、佐渡の先生方は佐渡から出ると使い物にならないという状況が起こるだろう。いわゆる本当の心の離島になってしまう、技術の離島になってしまう、そういうことも心配なんですよね。ですから、今回いい機会ですので、精一杯予算をつけて、この機会に年次計画でスタートしてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員全員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ しっかり承ります。 ・ 他にございますか。 ・ 質疑なし

<ul style="list-style-type: none"> ・三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次、2番の方のエアコン関連の意見交換、協議に入りたいと思いますので、ご意見等あればよろしく申し上げます。 ・ 先に1番の方に比べてこっちの方が私どもの立場から悩ましいものがあるって、要はこのランチルームのところは計画どおりやっていけばいいと考えているんですが、各教室の方は国の考え方、今年度補正も含めて出てこないと何とも判断できないのが1つあるのと、先ほど資料の方に業務用、家庭用とありますけど、学校の規模によって教室の広さの違い、あるいは将来的な統合等々も踏まえたことを考えると、果たしてせっかく業務用全部そろえて入れても... という可能性もなきにしもあらずだったり、その辺が非常にコントロールするのが悩ましいところかなという面もあるんですけど、その辺も含めてご意見をどんどんいただきたいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お悩みはよくわかるんです。国の態度がいま一つはっきりしないものですから、今決定というわけにいかないと思いますが、私は視点を変えて、地域経済にとってはどっちがいいだろうかと考えたわけです。業務用のエアコンを佐渡に何カ年か持ち込んで設置工事をして、維持管理をしていくときには、佐渡の経済よりも本土の経済が潤うだろう。ルームエアコンであれば、佐渡の電気業者、あるいは小売店が十分対応できると考えておりますし、例えばこの前両津病院でエアコンの故障がありましたが、即時対応ができなかったというような状況もある。ほぼ同じような支出であるのであれば、ルームエアコンで十分対応できると思います。今高等学校では、学校の自費で同窓会やPTAの協力を得ながら施設設置をしているという状況なんですけれども、ほとんどのところがルームエアコンで対応していて、十分それで対応できています。温度対応としてはルームエアコンで十分だろうと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番そういう意味でいうと、ルームエアコンでも国庫補助がついてくれれば本当に考え方もある程度わかりやすくなると思うんですけど……
<ul style="list-style-type: none"> ・仲川委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういう意見を伝えられるといいですね。
<ul style="list-style-type: none"> ・三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年も保育園とかでも暑さで、幾つかしか残っていなかったんで、エアコンを慌てて設置させていただいたんですが、やっぱり教室とか、建物のつくりによって家庭用エアコンでは合わなくて、特注の設計して、はめ込まないといけないみたいなところはやっぱり間に合わなかったりする部分も出てくる。そういう意味では、間違いなく暑い時期に間に合わそうと思うと、ルームエアコンの方がいけるのは確実なんでしょうけど。
<ul style="list-style-type: none"> ・渡邊教育長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の国の補助の関係なんですけど、まだまだ正確な情報ではないんですけども、ルームエアコンでもつけてもらえると。ただ、会計検査の段階で設計が十分できていなければまずいというようなこともありますので、まんざらできないわけではないなというふうに思っています。ただ、課長が説明したように、大きな学校と小さな学校がありますので、もし予算が付くのであれば、本当にいわゆる小さな学校はルームエアコン、大きな学校は業務用というような形で展開を進めていくということができるとかなと

	<p>思います。今年度または来年度中に多分国の概要も正確に出てくるというふうに思うんです。今年度中は概要としては出ないというふうに思うんですが、その段階で残りの部分をやるという手もあると思います。ちょっと他の市町村に聞いてみたら大きく2つに分かれます。来年で全部やってしまうというところと半分ずつやるというところ、3年ぐらいでやるという部分も含めてやっています。内容的には国庫補助がつかなくてもやるということが、他の市町村はほとんどその方針が今出ていますので、市長にもぜひ国庫補助がつかなくてもお願いしたいというのが我々の希望であります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そこで言うのと逆にその前に調査をお願いしたいのは、国庫補助がつかない前提で、特に業務用を導入する形の規模と大きさも含めてでしょうけども、そうすると本気でリース考えてほしいんです。リース契約は、初期導入費がかかりませんので、10年なら10年割りの一定したランニングコストとして考えればいいのと、リース契約だとそこに保守料金がしっかり組み込まれているので、メンテの部分も突発的なものが余り、よほどのトラブルじゃなければ発生しないので、10年トータルでやると、トータルでは買った方が安いんですけども、ランニングコストとして均した場合に予算的に回しやすいというものもあるので、そこをいろいろ、リースがどんな中身でどういう規模のエアコンならどのくらいかと、そこをリース会社等に問い合わせて調べてみてほしいのですが、これはリースでも国庫補助がつけばなおいいですけど、リースだとつかないか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山田学校教育課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パッケージエアコンの場合は最低400万以上の場合は確実に国庫補助がつくと言っているので、パッケージエアコンであればまず……
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多分リースの場合、普通のルームエアコン、家庭用エアコンはリースするメリットが余りないと思います。パッケージエアコン導入する分については、リースをちょっと研究してみたいと思います。その辺をいろいろシミュレーションをお願いしたいと思いますのですが、それ以外に何かございますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐藤委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぜひ学校への導入・設置をお願いしたいということでもあります。数年前から8月中にもう2学期がスタートしている。7月もいっぱい、いっぱいまで活動している。8月、お盆過ぎると各学校子どもたち登校しておりますので、ひとつお願いしたいと思います。特に3階建てであれば3階、4階建てであれば4階の教室というのは、天井からの輻射熱で、屋根がかかっている学校はいいんですが、屋上原則出ない、そういったフラットな屋根の場合は天井からの輻射熱が相当で、上層階では40度を超える教室もたくさん実際あるようであります。そのあたり天気予報等で報道される気温とはまた、そういう情報に加えて実情を把握して設置順位とか、優先順位とか、そういったものをお願いしたいと思います。 ・ また、導入に伴っては設置費用もさることながら、ランニングコスト、電気料というのも非常に大きいものがあるだろうと思います。電気料からいけばこれは低電圧の方が当然安い、熱交換も効率がいい、これはいろいろ

<ul style="list-style-type: none"> ・三浦市長 ・委員全員 ・三浦市長 ・渡辺社会教育課長 	<p>ろな情報には関係なく、それが事実なわけです。ただ、そのあたり今ほどいろいろな課題があろうかと思imasので、施設とか、それからその地域への電力の引き込み環境とか、いろいろあるかと思imasので、そのあたり本当に一律というよりも、現状を踏まえて、その学校の設置に一番有利な方法はどれなのかという点でぜひ進めてほしいと思imas。極端な天候が、気象状況が非常に近年多くなつてきております。よろしくお願ひしたいと思imas。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とりあえず国の動きがもう少しはつきり見えた上でこちらで案文づくりをして、委員の皆さんにはまたお示しできればというふうに思imas。そういう点から予算が見えてくると思imasので、それを少々お待ちいただければということによろしいでしょうか。 ・ 異議なし ・ 次に行つてよろしいでしょうか。それでは、3番の博物館、資料館等の今後の整備計画と4番のジオパークの現状について、社会教育課長の方からお願ひします。 ・ 社会教育課でございます。3番、4番についてご説明いたします。 ・ 3と4でちょっと目的が違うようなんですけど、一緒にしているのは、ジオパーク、条件つき再認定の一つの方向性を示さなきゃいけないものが拠点整備というものがござimas。博物館の方向を知が集まる方向としてジオパークの拠点としての整備の方向も踏まえた博物館の考え方を示すということになった関係で、3、4、一緒にご説明をさせていただくということでございます。 ・ 資料7になります。佐渡市立博物館、資料館の整備計画案の上にたたき台ということで、平成26年から佐渡博物館を中心に博物館機能を果たしておりますが、佐渡全島としての博物館機能としての課題、施設の老朽化、また両津郷土博物館が休館状態になっているというところも踏まえまして、もう一つは、31年以降きちつとした方向性が見えていない。併せまして、佐渡市全体で公共施設の個別計画策定を今進めているというところを踏まえまして、博物館、資料館の整備計画を、スケジュール的にそこに書いてありますが、本年度ご意見をいただきながら、全くのたたき台をつくりながら、31年度にしっかりと確定案をつくつていきたいと。32年度から事業を実施していきたいという考え方でござimas。 ・ ただ、H32以降真つすぐ線が引いてありますが、どこの段階でどうしていくかはこの後のスケジュール側の協議にさせていただきたいと思imas。32年以降進めていくという現在の段階では考え方でご理解をいただきたいというふうに思つております。 ・ 全体の理由から博物館、資料館の見直しを進めるということで、資料のとおり博物館の5つについては方向性をまとめました。佐渡博物館ですが、ここは佐渡学センターにもなつておるんですが、残念ながらあまり余裕のスペースがなくて、講座を開いたり、市民講座もそうですし、研究をした
--	---

りというものに場所をとることができません。そういう課題が大きい中で、佐渡博につきましては、佐渡全体が理解できる博物館としての機能を集中して、一言でいいますと佐渡のことは大体この博物館行けば見えるよというところから、佐渡全体に誘導する、そういう情報発信の拠点も含めて佐渡博の整備を考えていきたいというのが佐渡博の考え方でございます。

- ・ 両津郷土博物館につきましては、現在休館状態になっておりまして、見たい方が来られた際に学芸員が行ってご説明をするということになっております。しかしながら、ここに実は設置されている北佐渡の漁撈用具、これ国の重要文化財でございますが、これにつきましては、この施設以外になかなか置く場所が現在のところない状態でございます。そういう意味でこの施設の活用も図らなければいけないというのが一つ大きな方向性でございます。
- ・ この施設につきましては、もともと大きな博物館がございましたので、非常に研究スペース、講座をやるスペース等非常にあるということでございますので、今考えているのが、この施設、北佐渡の漁撈用具で、すみません、3番に南佐渡の漁撈用具と、これ現状が書いてあるんですけども、両津郷土博物館につきましては、佐渡博物館を補完する佐渡博物館の分館として、両津地区のものが見られるのは当然なんですけども、主に佐渡の漁撈用具がここへ行くと見られるという博物館という方向で、展示の問題など様々ございますが、という方向性を1つ掲げながら進めていきたい。博物館機能としては、再度、常に開ける形で進めていきたいというのが方向性の一つでございます。
- ・ 常に開くためには、学芸員等管理する人が要るんですけども、そのためにもあそこの施設を有効活用するため、ジオパークの拠点と佐渡学の拠点という形の知の拠点機能としての位置づけを置きながら、トキ交流会館等もございまして、大学生などもあそこに泊まりながら、エコだっチャリ等を使いながらここで学んでいくというような部分も含めまして、島民も向こうから来る交流する学生なども、皆さんが学びながら交流していく施設としても活用はできるのではないかとというふうに考えております。今後は施設改修等も必要になりますので、これにつきましては、国、県の補助等のことも進めていく必要がございますので、しっかりと知の拠点としての考え方を整理をしていく必要があるというふうに考えております。
- ・ 3番の小木民俗博物館につきましては、これにつきましても、1つの漁撈用具は先ほど申し上げたように両津郷土博の方に整理することにしても、佐渡の民俗資料、ここに一体的にそろえながら、この博物館に行くと佐渡の民俗資料が全体的に見られるというような形でも、佐渡博物館の補完機能として考えていくべきではないかというのが今の事務局の原案でございます。
- ・ ただ、ここに今たくさんいろいろなものが入っております。ここの整理が必要なことから、収蔵庫の管理についても検討が必要になるというこ

とで、大きな課題の一つではございます。

- 4の相川郷土博物館でございます。ここにつきましては、もともとあそこは事務所でございまして、建物自体が文化財として指定されているものでございます。ここは、残す必要があるのですが、相川地区の世界遺産を見据えたまち歩き等を踏まえても、ゴールデン佐渡へ行って似たようなものがある、奉行所跡に行くと奉行所の跡しかない。また、ここへ行くと同じようなもの、若干もちろん違うんですが、似たようなものが並んでいるということ。また、ガイダンス施設が今度相川でオープンするということがございます。
- そういう点を考えますと、小さなもので博物館機能を行うのではなく、この博物館機能をゴールデン佐渡の一応2階資料館ということになっております。そこで一つの補填をしていく。もしくは重要なものは世界遺産のガイダンス施設に展示していく。もう一つ佐渡奉行所も今奉行所史を見るだけになっておりますので、そういうところの活用も踏まえながら、奉行所でいろいろな佐渡の金山の歴史を知ることができるというような構成もあり得るのではないかと考えておりました、相川につきましては、まち歩きも兼ねながら、世界遺産に対応した、お客様に相川を知っていただく、金山を知っていただく。そのための博物館機能というところを、現在の場所ではなく、どちらかの場所で効果的に示していきたいということが現在の考え方でございます。そういう意味で、建物はもちろん残しますが、博物館機能については廃止していきたいというふうに考えております。
- 5番の佐渡植物園につきましては、博物館機能として行うにはかなり物自体も中途半端というか、難しくなっております。そういう点を考えまして、今後あそこを博物館として機能強化ではなくて、市民公園として佐渡のものが見られるような方向性の方が現在の管理状況、今後の方向性を考えると適切ではないかというふうに考えております。そういう部分で、佐渡植物園は植物園としての機能の廃止を考えていきたいというところが、博物館の5つの方向性を今たたき台として考えているところでございます。
- 資料館他につきましては、6から13までございます。これにつきましては、さまざまございます。例えば新穂は今地域と一緒に頑張って展示の方、頑張ってお客様もたくさん来ていただいている状況ですし、赤泊につきましては、教育事務所が所管をして、事務所機能も一緒にあるということでございます。
- ということでそれぞれが6以降、各地域に根づいている状態でもございますし、地域で管理しているところもありますので、これにつきましては、今廃止等の方針ということではなく、地域といろいろ話をしながら、今後の資料館についてはあり方を考えていきたいというふうに考えているところです。
- 続きまして、裏に入りますと収蔵施設です。ここは少し課題でございま

して、現在佐渡市の方と畑野地区のところで収納施設の方を今協議をしておるところで、使用が可能なところも出そうだというふうには考えておりますが、14、旧北中学校、これは傷みも進んでいるということですし、15はかなり古いということでございます。16の旧川茂はかなり遠いので、管理がなかなか難しいということがございます。17は、非常に古くなったり、管理の問題が出ているということで、収蔵庫につきましては、今後一体的、若しくは本当に必要なものは温度管理ができるということも踏まえながら、佐渡全島の今後の建物の空きスペース等も踏まえながら検討をしていくということで考えております。

- ・ しかしながら、小木博物館等改修する場合は、中のものをきちっと整理をしなきゃいけないということで、収蔵施設等が必要になります。そういうことなので、旧体育館が空いているところを踏まえまして、入れられるところから協議を早急に進めていきたいと考えているところでございます。これにつきましては、意見をいただきながら、今年、博物館協議会を含めて意見をまとめて案をたたいていきたいというふうに考えております。その上で来年度正式に市民も含めて意見をとっていきたいと考えておりますので、またその後のいろいろな部分で意見をいただきたいというふうに考えております。
- ・ 続きまして、ジオパークでございます。これは、先ほど申し上げたように、1つ大きな方向として、佐渡の人が学べる、また佐渡においでになった人がジオパークを知りながら学び、交流できる、そういう拠点としての両津郷土博物館という機能をご説明しましたが、今アクションプランということで、昨年度条件つき再認定、主なもので1つが、3つの遺産の関連性をもっと島民が理解してほしいと、関係者も理解しなさいというのが一つの指摘でございますし、サイトの再設定ということで、これは保存方針とか、見どころ、そういうものをもっとわかりやすくしてくださいという指摘がございました。
- ・ その1つ、3つのプログラムについては、現在、担当者会議を進めながら、10月以降に各それぞれの関連される方々に佐渡の3つの遺産はこういうつながりができているということを説明する予定でございます。
- ・ サイトの再設定につきましては、今小木博をめどに立てております。相川は今年いっぱいぐらいをめどに、国中は来年度早々をめどにということで、きちっと見どころで特徴、保存方針を含めて、今、案を設定しているところでございます。
- ・ もう一つ、視認性という言葉が言われております。港におり立ったときにジオパークの視認性が足りないということを言われております。この辺は、佐渡汽船さんといろいろ話をしながらやっております。視認性につきましては、佐渡の風景の中に変なのぼりを入れるというのは、我々としては比較的ちょっと反対の意見でございますので、出入口の中でやっぱりそういうものが見られる、ジオパークの島というのが見られるというのは

<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 ・ 信田委員 ・ 佐藤委員 	<p>必要かと思っております。先ほど来拠点施設の整備も含めながら、市民の皆さんにジオパークとか、世界農業遺産G I A H Sについては、認知度がまだまだ足りないということがございますので、3つの資産の意味をしつかりと伝えていきたいということで今取り組んでおるところでございます。状況としては以上でございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つずつご質問、ご意見ありましたらお願いしたいと思っておりますので、まず博物館、資料館等の今後の計画についてご意見等がありましたらよろしく申し上げます。 ・ 私は、島外の出身者であります。それで、佐渡の博物館というのを1回行ったことがあります。あと子どもたちが学校の遠足とか、そういう中で行ったことがあるということを知っております。本当に入ってみると、私が知っているのは佐渡博物館と小木の民俗博物館を知っております。地元の赤泊の資料館も知っています。なかなか一般市民、私が一般市民と考えていただいているいいんですけども、やっぱり敷居が高いですね。年間に博物館の中でいろいろな展示物の案内とか、あるんですけども、なかなかその機会、その時間に行けなかったりとかあると、ちょっと興味があるけど、なかなか行けない。中もどうなっているのかなというのがあるから、これから本当に周知をしていったり、またその中の収蔵品の整理にしろ、そういうお金をかけていくんですけども、本当にそのお金をかけただけの効果というか、やっぱり観光客もそうですし、一般の市民の方にも興味をもって、こういうものがあるんだ、それは親が知っていたり、地域の方が知っていたことは、それをまた次世代の子どもたちにも伝えていける大事なことだと思うんです。 ・ だから、まだ今のところだと博物館、せっかく重要ないい資料のものが生かされていない、ちょっとその辺が残念だなと。入りやすい博物館の志向としていろいろな町村、各県なんかでも入りやすい工夫で、ちょっとイベント的なものもあるかもしれないんですけども、それも中には必要かなという思いがします。やっぱり行ってみたい、のぞいてみたい、それで知ってみたいと思われるような博物館であったり、資料館であったりすることが大事だと思いますし、それも親子連れで行って見てくれる。小さい子どもでも行って楽しめる、親が行って楽しめる、そんなことも一つの視点なんじゃないかなと思います。よろしく申し上げます。 ・ ぜひ今後の有効活用に向けての博物館、資料館整備、よろしくお願ひしたいと思います。佐渡は宝の島と言われていますが、それにふさわしく、博物館、資料館へ行ってみると、その関連したものが大体概念がわかって、次に今度来るときはこれに関しての現場といいますか、その地域へ行ってみてみたいな、こういう思いが持てるような、特色あるといいますか、先ほど何々拠点という説明がありましたが、そのあたりを視点に整備をしていただいて、観光の目玉の一つになるようにしていただきたいと思ひます。 ・ 現状は大変厳しい状況と認識しております。両津郷土博物館に関して、
--	--

関東、横浜の方ですが、仲間を連れ立って、自分が関係したのを見たいということで来たんですが、鍵がかかっていた。自分の思い入れの品が鍵がかかっているところに閉じ込められているような気持ちだった。関係のところへ電話をしろというんで、かけたら、今日はできなかったということで、そのものについては一つの目的は達成できずに帰りました。何とか伝える機会があったらぜひ伝えてほしいと、こういうちょっと知り合いの方のお話がありました。

- それから、今、大変高齢化して空き家が多くなってきて、特に周辺部のそれこそ以前の名主といいますか、名家の中にはすばらしいものがいっぱい眠っている。私が具体的に伺ったのは、実は源氏物語の初版本が全巻そろっているんだ。それから、ちょっと金井のあたりの人が宇治拾遺物語が和綴じのものが全部そろってあるんだけど、家を今度リフォームする、また壊す、どうしたらいいんでしょうねということでしたが、結論申し上げますと全部（神田）の古書店に連絡をとって、見積りをとって買い取っていただいた。というのは、関係の佐渡の詳しい人にも声をかけたんですが、とてもそんなことしてられない。当然知り合いの博物館関係の人に言っても、それは預かるような形では受け取れない、寄贈ということで。当然、蔵の中というか、収蔵庫に入れておくんだということを聞いたら、嫌になって、それだったら世の中のためになってほしいということで、その選択になったんです。

- また、古物商も本線沿いにもありますが、お聞きしたら、最近高いでしょうね、買い入れるのは。いや、皆さん要らなくなったから、引き取ってほしいと、こういうことでいっぱい並んでいました。本当に島内に受け入れ場がなくて流失、消失しているような、非常に残念なことであります。魅力あるものがたくさんあると思います。そういった意味で、そういったものの受け入れ場と、先ほど申しあげました今ある施設が有効に活用できるように、そしてそれで一つの観光につながるようにしていきたい、してほしいと思います。そういった意味で、世界農業遺産とか、世界文化遺産、ジオパーク等の取組との関連を図って、それぞれのプロジェクトといいいますか、取組の拠点となるものが明確になるようなものを、現在あるものをもって、いわゆる有効に活用して保存、展示、啓発していただきたいと思えます。

・ 三浦市長

- 今、お二人ともおっしゃったように、簡単な言い方すると、合併後一番多分積み残しのまま来ちゃっている部分がこれなのかなというのは非常に感じていまして、佐渡市になってからも結局少し中をいじろうかどうのこのというのは、佐渡博以外何もいじくっていないというような状況で、さっきの漁具の話もそうですけど、それぞれの旧市町村単位の資料館とか、郷土館がぼんぼんとあって、それがばらけて、それをまとめて歴史をということもやっていないというものもあるのと、先ほど課長の方から言ったのもあるんですけども、去年のジオパークの再認定審査のときに、私も結

構一緒に同行して回った中で、審査する先生方の一番厳しい目と意見があったのは佐渡博物館だったと私は感じました。

- なぜなら、日本ジオパークに認定されたということで、佐渡博の2階の階段の近くの鳥の剥製とかが置いてある脇のほんのこのぐらいのスペースに、急造でジオパークのパネルを立てただけなんですよ。あれは、全くこんなとってつけたような日本ジオパークかぐらいな、完全に目がつき上がったのが見えたんで、そうすると、やっぱり他のジオパークののところと比べると、ここの地域のジオパークをしっかりと説明する場所というのは、この机の中ぐらいしかないんです。それも全部パネルの写真が並んでいるのと文字が並んでいるだけとかという状況、これはやっぱり無理だろうなというのがあります。そうすると結局、佐渡博の中もジオパークから1階は金山から何からで、とにかくこの博物館はごちゃまぜ博物館みたいなのも事実で、片方ですと眠っている博物館もありますとか、というところも変な話。しっかりと組み直して、使えるところはしっかりとテーマをもって再活用して、本当にここは無理でしょうというところは廃止ぐらいの気持ちでやらないと多分変わらないかなというのもあって、社会教育課にお願いして今年度中に計画だけは作ろうということでやっているんですけど。

- 3つの宝、3つの宝と言いながら、金山以外全く頑張ってる宝のPRをしていないもんですから、特にジオパークはしんどいかな、今のままでは、というのはあります。農業遺産とかは大丈夫ですが、ジオパークというのは必ず4年ごとに再審査があるので、逆に言うと歩みをとめられない遺産でもあるので、その辺のところが、日本遺産に認定された時点であぐらをかいていたというのが事実だと思います。その辺を含めて博物館系を見直すのも今しかないのかなというのがあるんで、やらせていただいたんですけど。

・ 仲川委員

- 大分しんどい計画だなと思うんですけども、市長さんが言われたとおり合併後の最大の課題の一つが博物館、資料館の整備計画だと思います。今日はちょっと資料館について話したいと思うんですが、ここへ来たら精選して集約をして、それなりの活用を考えるという方向にまとめてもらう方が、各旧市町村にとってもかえってありがたいんじゃないかと。活用しなければ宝の持ち腐れでいつかは朽ちてしまいます。ちゃんと人に見せられるような形を是非とってもらいたい。赤泊も立派なものがそろっていますし、小木の伝承館にもありますし、それから北中学校の収蔵庫にもそれなりのものが納まっているだろうと思います。しかし新たに何か建物を建てるというのは非常に無駄がある。考えるときには複合型施設。例えば中央図書館を上手にリフォームする。そこに美術館を併設して、図書の数も増やすというような形。あるいは、これはあり得るかどうかわかりませんが、新市庁舎のワンフロアにそういう機能を持たせる。あるいは民間の力を借りて、民間のホテルと上手に協働する。

- 実は昔から思っているのは、あの佐渡汽船。玄関口に何も無い。例えば

	<p>佐渡汽船のビルを大きな施設にして、最上階に展望風呂、その下へホテル、その下に博物館、美術館を入れるというような、例えば外から来た人が真っ先に学習できる施設、あるいは帰る前に復習できる施設というような形の、行政と民間との融合体のようなものを考えられるとおもしろくなるんじゃないか。今ここでせっぱ詰まったところでこんなこと言っても失礼なだけなんですけれども、もし何か参考になれば、そういう形の民間との複合型施設というものを考えられるといいだろうなと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あとは、たくさんあるけど、しまったままになっているものでも共通のテーマで展示できるものはたくさん佐渡あるはずなんで、そうすると、時期、時期で、1か月単位などで何とか展という形で例えば廃校になった校舎を使って、これだけの佐渡を見せるとか、そういうこととか、いろいろな画策はできると思うんですけど、1回飾ったら飾りっ放し、しまったらしまっ放しというのが今までの佐渡博物館だったんで、そこは変えないとまずいかなと。金井なんかも古い農具とか、どこか建物の中にぎゅうぎゅうに詰まっていて、あのままでどうするんだというようなことも地元の人が泣いていたりしますし...
<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡辺社会教育課長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 締め切っていて保存状態が悪くなる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ もう少し相談させてください。あとジオパークの方、何かご意見等ございますれば。来年の11月ぐらい、ちょうど1年後ぐらいに再審査がまた入りますので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 信田委員 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジオパークについて、一般の方々が説明に入ってガイド入ったりするのは、すごくいいことだなと思います。もっともっと広げていただいて、いろいろな人が参加できるような、ジオパークについて興味をもって、佐渡ってすごいね、決してぼんとある日から出てきたものではなく、本当に歴史の深いものがあるって、子どもたちの中にも佐渡に生まれて育ったこの自然が、この地形がどのように成り立ってきたというのはすごい壮大なロマンを感じるようなものがあると思うんです。本当、だからガイドさんを有効活用していただきたいですし、もっともっと市民の方々にもガイド活動やっているよとか、何か折を見てちょっとジオパークのここ見に行こうよとか、実際そういうお話を聞くとか、現に今もやっていらっしゃると思いますけど、よりまたその方々が活動しやすいように、またみんなが参加しやすいような機会をいっぱい設けていただきたいと思います。よろしくお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦市長 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 去年の再審査のときに審査員の方々から言われたのは、佐渡はジオパークのガイド養成とかも含めてまじめ過ぎる。要するにジオパークのガイドさん物すごく勉強熱心、物すごく知識をお客さんにバツと説明するんですけど、審査に来た人からすると、ジオパークというのはその土地に根差しているものなんだから、お客さんが来て例えば街の喫茶店に入ったり、駄菓子屋さんに入ったりしたときに、そこのおばさんが、あそこのうちの裏

山のところがこんなになっているのは、昔こういうことでこうなったらしいわよというような雑談ができる人を増やすことを佐渡は頑張れと。まじめな方はまじめなガイドさんが必要、これは有料のガイドとしても必要なんでしょうけど、いわゆる通常の生活の中にまだ入り込んでいない部分はちょっと指摘されました。逆にガイドさんが頑張っているもんだから、雑談するのが恐れ多いのかもしれないですけども、身近さは言われましたね、親近感というか。

・佐藤委員

・先ほどご説明いただきましたアクションプランにある3つのプログラムの関連性の明確化は、大きく期待しているところです。ジオ、大地というのは、非常に時間的にも空間的にも膨大な広がりをもっているわけであります。その概念は、語れば異口同音、みんな千差万別というか、それぞれみんな異なると思います。そういう中で、今、博物館、資料館の整理計画の中で拠点施設というのは、それをある程度凝縮し、その概念をつくらといますか、構築する非常に大事なことだろうと思います。

・皆さん、糸魚川のジオパーク行ってみてわかるとおおり、非常に具体物がしっかりそこにあり、そして広くは糸魚川のメノウがなぜ産出するのかというところまでずっと説明が入ったり、また気象状況もいろいろ資料の中にありますが、佐渡の場合、じゃ金山行ったときに、恐らく島外から来た人はなぜここに金があるんだということは誰もが感じると思いますし、また実際に来た人が聞いたけれども、誰も答えてくれなかった。どこにも書いていなかった。これは、明らかに大地、ジオとの関連であって、佐渡の鉱脈に金や銀がある、それから農業遺産となる要素、要因は全て佐渡島の生成、成り立ちに大きく関わっている。このあたりをしっかりと一つの大きなプログラムのメインというか、土台だと私は思っています。そこが揺らぐようではやっぱり認定されないということになったら、本当に他のものにも大きく影響するだろうと、こう思っています。

・今市長さんが地域のそこにいる住民の認識と言いました。例えば小さいころバスに乗って「次は貝塚でございます」との、ガイドさんの声に、何でこんな国中のど真ん中に貝塚という名前があるんだろうな、こう不思議に思っていて、後で縄文時代とかに、水辺であったと、海辺であったと。そうなんだという感じですし、両津というのを聞いても何で両津なんだ。また、新穂に舟下という、舟のしかも下なんて何だと、何かがあるんだろうと思うんですね。それぞれの長い歴史の中に今度ジオとかかわった部分、いっぱいあるんだろうと思うんですが、そういったものも含めて新穂の博物館に行ってもいろいろなそういった資料、物、遺跡がありますが、それらとジオなども大きく関わる場所だろうと思っています。

・そういった点で、この3つのプログラムをしっかりとやるためにも、関連性と、とにかくジオ、拠点、概念を構築してくれる、そういう施設が欲しいな、本当にそれは感じます。

・三浦市長

・ジオの中には多分G I A H Sも金山も全部入って成り立つものなので、

<p>・ 渡辺社会教育課長</p>	<p>それが佐渡の生活にもつながっているということをまとめるには、やっぱりしっかり一つの拠点づくりをというふうに思っています。</p>
<p>・ 三浦市長 ・ 委員全員 ・ 三浦市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に何かございますか。よろしいですか。課長から。 ・ 私は説明員なので。全体的な現状ですけど、先ほどちょっとおっしゃられたように、実は最近すごく文化財、家にある古いものを見てくれないかというのが非常に多くて、うちの博物館の職員が飛び回っています。ただ預かってくれと言われても預かれないので、寄贈の場合は行って、重要なものは京都の方から人を呼んで全部チェックをして管理を決めたりしておりますが、多分今後増えると思います。その部分で収蔵庫について、普通のを置くところはあるんですけども、温度管理ができるものについてはちょっと再度考えていかなきゃいけない。例えば廃校の一部を冷房を入れて管理できるようにするとか、いろいろな課題がありますが、そういう部分は今後考えていかなきゃいけないだろうというふうに考えております。 ・ あと博物館を皆さんに使っていただきたいというのは、公民館事業等も踏まえて少し考えた方がいいかと思ひまして、実は最近ちょっと見た中で、東京大学の学生が、田舎の学生と都会の学生の何が違うかという、文化をやる知識を得るためのお金を払う意識が全く違うというのが統計に出たそうです。ですから、都会の方は知識を得るためにお金を払う、ペイするというのをあまり高いと思わない。田舎の方はそれはただだと思っている。ですから、ただじゃないと行かない。だから、博物館とかに足が遠のく、そういう現状があるそうです。佐渡の場合離島ですので、知識レベルは下げない、知識レベルを与える環境は高めていく、またそれを使っていくところが教育委員会として重要だと思ひますので、そこは公民館の中に取り入れていくことを相談したいというふうに思っております。ジオパークは頑張ります。ご指摘のとおりでございますので。 ・ 3つの遺産は、島ができて、人がいて、経済ができて、自然ができて、環境ができた、このテーマごとに並べて一つの形をつくと、先ほど市長がおっしゃられたジオパークから全てが収まるはずだと。だから、そこをちょっともう一回見直してほしいということで担当にも言っておりますので、できるだけ島の成り立ちというところから3つの遺産が語れないかというところを今考えておりますので、かなり時間も押していますが、頑張っていきたいと思ひますので、まだご指導よろしく願いいたします。
<p>・ 山田学校教育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ よろしいですか。あと5分ぐらい残っていますけど、いいですか。 ・ 異議なし ・ すみません、4つ目までで終わってしまいましたが、今日はここまでということにさせていただきたいと思ひます。また、よろしく願いいたします。じゃ、お戻しいたます。 ・ 本日はご協議大変ありがとうございました。議題の残りにつきましては、次回に回したいと思っております。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・ 以上をもちまして平成 30 年度第 1 回佐渡市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。 |
|--|--|

午後 4 時 55 分終了